

話し合いならぬ

話し合いの条件整備で対立

きょうの話題
あすの話題



対等の立場での話し合いを主張して
溝淵知事に詰め寄る場面もあった。

県主催の高知空港拡張に関する地元住民との話し合いが五月二十五日、日章地区公民館で開かれた。話し合いに先立ち空港拡張反対市民連合（有沢実会長）は集会を開き、「昨年の公聴会での鉄条網、機動隊動員の謝罪」「対等の立場での話し合い」などの条件を決めて臨んだ。

「昨年の公聴会には鉄条網と機動隊の中で行われた。責任者である知事の謝罪がないと話し合いに入れない。」などと追及。これに答えて溝淵知事は「クツで入れるところもあるのだから、まらがつていた。」と述べ、齋木副知事から「公聴会には運輸省の主催したもので、鉄条網は運輸省がやった。機動隊は県警本部長の判断でやったものだ。」などと述べたが、「県警本部を指揮、監督するのは県知事だ。知事から謝罪してもらいたい。」とゆずらず平行線。

場内騒然

だまれ発言で

対等の話し

合いを主張

高知空港拡張に関する地元住民との話し合いは五月二十五日、午後一時すぎから日章地区公民館に空港拡張反対市民連合ら市民約五百人が集って行われました。主催者側の県からは溝淵知事、齋木副知事、西尾企画部長ら幹部が出席。あつせん役の大川・西内両県議、土居市議会議長・橋本空

港対策調査特別委員長も出席。定刻を二十分ほど過ぎて司会者が話し合いの順序を話し、「住民の声を聞きたい」と語り出すと「本場に聞くか」と若い女性の声。有沢市民連合会長が立ちあがって「話し合いというのは名目だけで、空港拡張の説明会にすぎない。対等の立場になつての話し合いでなければ順序に従えない」というと会場から拍手。

「対等の立場での話し合いなど条件が整わなければ会合に入らない。」という市民側と「県が主催する話し合いなので説明を聞いて議論するところはしてほしい」という県側が対立。

消せ」「取り消さない」など、市民が詰めよる場面があり紛糾



日章地区のおとしよりも
ささいあつて参加

対話の予備折衝を約束

(県)拡張業務は停止せず

予定していた午後四時がきても話し合いは進まず……。市民「知事は住民を犠牲にしな」といつているが、対等とは相手の立場を尊重することだ。話し合いのつかないうちは拡張の業務はやらないうことを説明するならば、これからの話をすすめたい。知事「なるべく迷惑をかけないようにしたい。業務はほとんど進

話した」ということで拡張の業務をすすめる。拡張を前提に次にすすめるための形式的なものなので不快感がある。など、口ぐちに不満がだされました。結局、有沢会長が「今後、対等とは何かを考えた。これ以上続けることは無用のまじつを深めることになるので、今日の会はこれで終りたいが果の見解はどうか。」と語り出すと齋木副知事も「予定の時間を一時間もすぎたので、申し出を受けて終りたい。関係者と話し合いのうへ、話し合いのときれないようにしたい。」

もあるので危惧があつた。会を拒否する気持は全くない。次の会のための予備折衝を提案したい。話し合いがつくまで空港拡張の業務は停止することを確認してほしい。」と締めくくると「業務の停止は約束できない。機会がきたら現地へもきたい。これで終りとは思っていない。」と溝淵知事も答え、西尾企画部長から「予備折衝をしたので、よろしく」と、今後対話のための予備折衝をして話し合いを続けることを約束し合つて閉会しました。

ゴミ袋。一枚十円に

六月・十二月の二回に配付

ゴミ袋は一世帯当り年間百枚を限度にして無料で配付していましたが、この七月から一枚十円が市民の負担になります。このことは、すでに広報なんこく四月十五日号でお知らせしましたようにゴミ袋無料化は杉本市長の公約第一号として実施

され、引き続き無料でするよう三月定例市議会に提案していましたが、ところが「無償だと明らかにムダ使いになる。財政硬直化のとき十円を市民の負担にすべきだ」という意見が多く、採決の結果、賛成多数で「無料をやめ、一枚に

つき十円を市民の負担にする。」ことが修正議決されたものです。ただし、生活保護世帯は今まで通り無料になります。市はすでに四月からの三か月分一世帯当り二十五枚は三月のうち無料で配付していましたが、七月から十円を徴収することになった

ものです。十円を越えるお金は市がすべて負担しますので、袋代の増減にかかわらず、市民の負担は十円ですみます。現在、ゴミ袋を必要とする世帯の申請もほとんど終了しましたが、これによって来年六月末までの一年間、一世帯当り百枚を最高限度として年二回に分けて配付されます。

配付は六月末までに、十二月末までの半年分五十枚を、十二月中旬に来年六月末までの残り半年分五十枚を、それぞれ限度として地区衛生委員宅で渡します。百枚を越えて必要なものは、市の売店で販売しますが、これは実費をもちょうことになっています。転入のときの枚数は、月割り計算をして市の公害環境課で渡すことになりました。市は「無料化を継続、市民ぐるみの衛生思想、きれいな町づくり」に全力をあげたい。」としてただだけにシヨックも大きく、市民からの苦情もでていますが、理解をもとめるとともに「日本一きれいな町づくり」のため、市民の積極的な協力を呼びかけています。